



先斗町通 無電柱化事業

先斗町まちづくり協議会



先斗町通の無電柱化実現に寄せて



先斗町まちづくり協議会
会長 諸井 誠
副会長 金田 祐一
楠 大毅
神戸 啓

この度、京都市・関西電力送配電株式会社・西日本電信電話株式会社など皆々様の御尽力によりまして、先斗町通での無電柱化が完成いたしましたこと、厚く御礼申し上げます。

先斗町まちづくり協議会では、2009年からまちの様子にふさわしくない様々なものの是正、修正、撤去、改善をまちづくりの中心的な課題として取組を進めてまいりました。

町並み景観の維持保全・再生ということばで申し上げますが、それはすぐになせるものではなく、一つひとつ、京都市関係各課とも協働し、まちの者の考え方や思いを聞き、先斗町らしい様子というものはなんであるのか、今まちに生きる者たちが、自分のまちと向き合う活動でありました。

取組を進め、まちが本来のまちらしさを見せ始めたころに、狭い通りの上空では電線類がひととき目立つ存在となりました。このような狭い通りでの無電柱化というのは世界的にも前例がなく、無電柱化は不可能であろうと諦めておりましたが、いくつもの新方式を採用していただき実現することとなりました。この事例は、先斗町というまちの町並み景観維持保全、そして再生にとどまることなく、世界的に無電柱化を大きく後押しするものであると考えております。今後、日本の様々な地域でも当方式を発展させた無電柱化による町並み景観の保全がなされていくことを願っております。

事業完成に当たって



京都市長 門川 大作

京都でも有数の文化・遊興の地として発展し、品格と賑わいを併せ持つ先斗町。すれ違う人の肩と肩が触れ合うほどの道幅と沿道の伝統的な建物が独特の風情を醸し出し、国内外の多くの方々を魅了してきました。

そんな先斗町通の無電柱化事業は、かつて「不可能」とさえ言われていました。それは、極端なまでの道の狭さと、地下に縦横無尽に埋設された水道管や下水道管、ガス管を避けるという難題ゆえでした。

しかし、地上機器の設置場所の工夫や電力樹の小型化、電線共同溝埋設の省スペース化…。無電柱化における「先斗町方式」ともいべき新たな手法を取り入れ、先斗町まちづくり協議会はじめ地域の皆様、事業者の方々と一緒に挑戦。この度、完成に至りました。

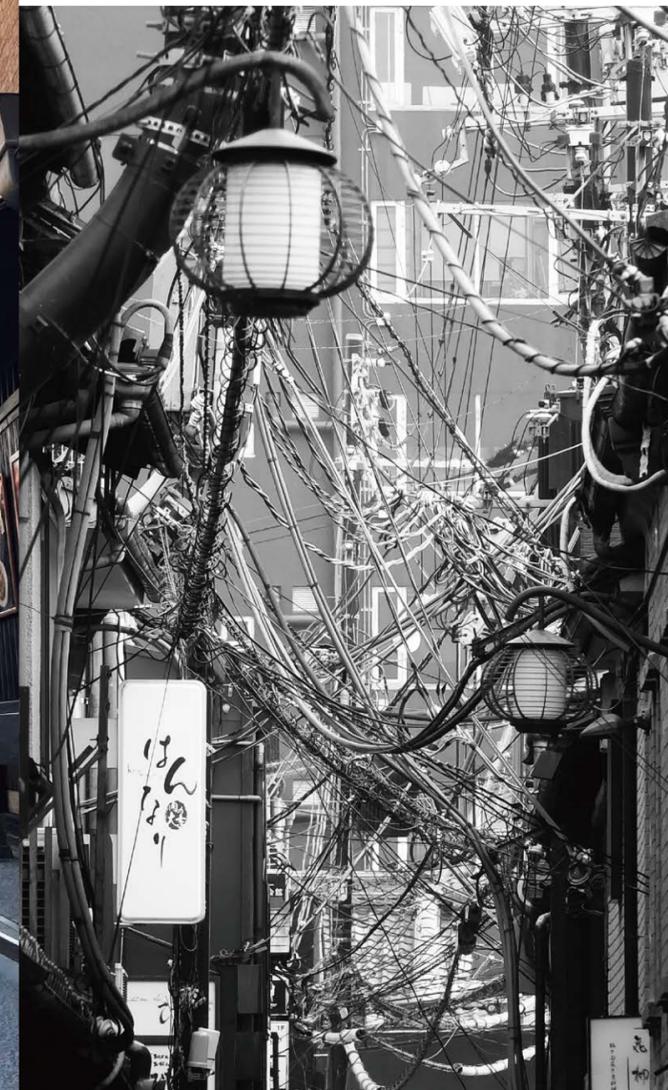
本事業は、全国におけるモデルケースとして、貴重な成功例になったと確信しております。事業開始から7年。多大な御理解と御協力を賜りました全ての関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

空が大きく開け、生まれ変わったこの先斗町通で、多くの皆様が楽しい時を過ごされることを願っています。

事業概要

本事業は、電柱や電線類を取り除くことで、先斗町通が持つ魅力的な町並みを保全再生し、地域の更なる活性化を図るとともに、都市防災機能の向上、安全で快適な歩行空間の確保を目的としています。

事業区間：京都市中京区石屋町～柏屋町
道路延長：L=490m
道路幅員：W=1.6～4.4m
事業年度：平成27年度～令和3年度
地上機器数：31基
撤去した電柱：17本



先斗町通 無電柱化事業

京都市建設局道路建設部 道路環境整備課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

TEL (075)222-3570
FAX (075)213-0193

令和3年11月発行
京都市印刷物 第033154号



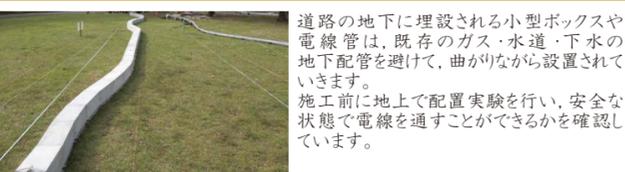
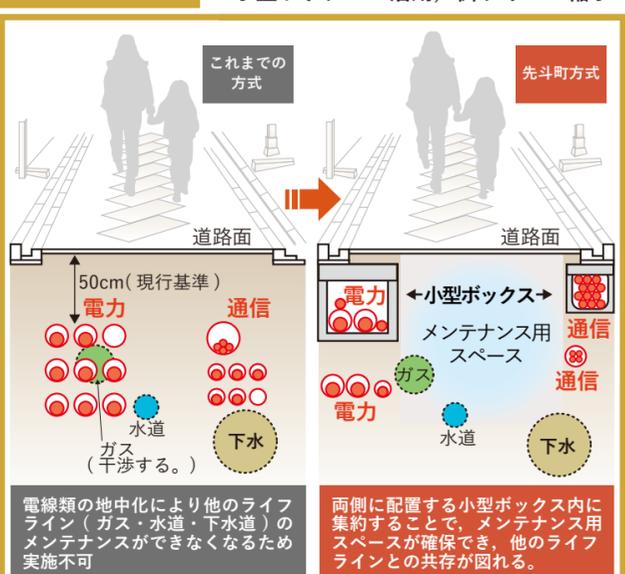
京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

無電柱化における「先斗町方式」

先斗町通の特徴 **狭小な道路** **電力の需要密度が市内で一番高い** **歴史と伝統のある花街**

無電柱化するうえでの課題 **地下に埋設するスペースが少なく、ガス、水道、下水道の管と輻輳** **限られた場所に多くの地上機器*が必要** **景観に調和した整備が必要**

「先斗町方式」

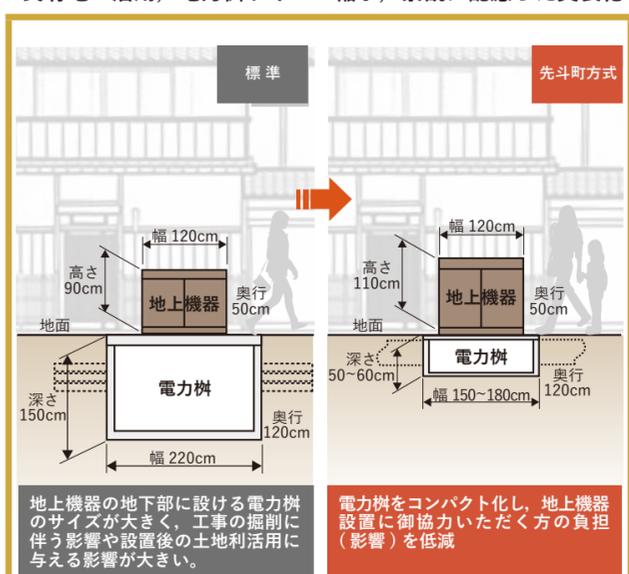


無電柱化工事



解決策

民有地の活用、電力柵サイズの縮小、景観に配慮した美装化



地上機器を設置させていただいた場所

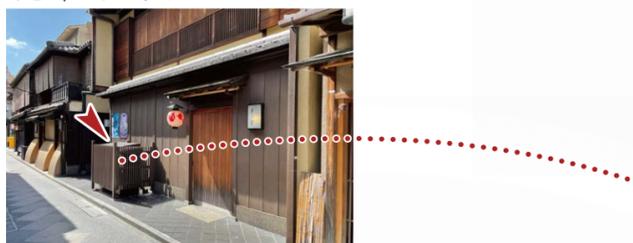
地上機器 **先斗町歌舞練場**



先斗町通の無電柱化は、民有敷地内での地上機器・電力柵設置に対する御協力なしでは実現することができませんでした。

設置した地上機器には、美装化を施し、先斗町の景観に調和するデザインに仕上げています。

先斗町 井雪



舗装

舗装の仕様については、先斗町まちづくり協議会をはじめ、京都景観フォーラム等のメンバーによる7回に及ぶ舗装検討会議や試験舗装を実施し、地元関係者や学識経験者の意見、地域の方々へのアンケート結果を基に、花街としての先斗町通の街並みに調和したデザインとしました。

※番号は左の地図に対応しています。

①先斗町の入口

通りの端部を先斗町の象徴である千鳥柄の金属製ブロックを散りばめた石材舗装としました。先斗町通の入口を華やかに演出しています。

②先斗町歌舞練場前

他の箇所との差異化や景観性を考慮し、石畳風アスファルト舗装としました。先斗町歌舞練場へのアプローチとしてふさわしい品格を持っています。

③先斗町通本線

地域の方々から長年愛されてきた従来の「長方形半ざらし四半張り」の石材配置を踏襲し、約半数の石材を再利用しました。舗装面はショットプラストで削ることで表面を粗くして滑りにくさを確保するとともに、舗装材料に入っている石材を露出させることでデザイン性を向上させています。

④先斗町公園前

グレー系脱色アスファルトを採用。本線と同じくショットプラストを施し、滑りにくさを向上させるとともに、石材風の外観を持たせています。石の舗装が施された公園との一体感を形成しています。

道路照明灯

先斗町通には、先斗町お茶屋営業組合が所有する照明灯が設置されており、先斗町の提灯をイメージしたデザインで、灯具の底に先斗町の象徴である千鳥のマークが施されています。この照明灯に加えて新設する道路照明灯は、既設のものを踏襲したデザインとし、通り全体で統一感を持たせています。光の色合いや照度にも検討を重ねた電球色の照明灯は、夜の先斗町を美しく照らします。

先斗町の行事

五月 鴨川をどり

先斗町歌舞練場で開催される『鴨川をどり』は、五花街“をどり”公演の中でも最も多くの上演回数を誇ります。その歴史は古く、明治5年(1872年)に創演されたのが始まりで、普段なかなか目にすることができない芸妓、舞妓達の華やかな演技や踊りを体験することができます。その魅力は国内のみにとどまらず、海外にも広く知られています。



五月～九月 鴨川納涼床

古くから祇園会の時期には、神輿洗いが行われた鴨川の四条河原に多くの人々が集まり、賑わいを見せていました。豊臣秀吉の時代になると、三条から五条河原の辺りに見世物小屋や物売りが出現し、富裕な商人が見物席を設けたり、茶店が出来るなど更に賑わいを見せるようになりました。これが「納涼床の始まり」と言われています。江戸時代に入ると近隣に花街が形成され、歓楽街となり、一時は400軒以上の床が出されていたと言われています。当時の床は砂洲に床几を並べたり、浅瀬に張出し式の床几を置いたりしたもので、「河原の涼み」と呼ばれていました。その後、江戸中期より幾度となく行われた鴨川の改修によって、現在の高床式の床になりましたが、「鴨川の涼み」としての文化風習が継承され、今でも多くの人々に賑わいを見せています。

十月 水明会

鴨川の清流にちなみ名付けられた「水明会」は昭和5年3月15日に第1回目の公演が開催されました。それ以前、芸芸研究会として催されていた「長唄千代栄会」と「土曜会」の両会が発展的併合したもので、先斗町歌舞会の代表的行事の一つです。

二月 先斗町 軒下花展「このまちに、花」

平成27年から開催されている先斗町 軒下花展「このまちに、花」。先斗町通の軒先に200個余りの小さいいけ花が並べられます。並べられるいけ花は、展示前のワークショップで参加者がいけたお花です。